

自分の命を守り抜く児童の育成

—リスクコミュニケーションをベースとした AAR サイクルの 避難訓練プログラムを通して—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

小出 雪恵

本研究は、児童が災害時に自分の命を守り抜くために、災害を自分事として捉え、適切に判断し、主体的に行動する力を身に付けることを目的とした。そのために、リスクコミュニケーションをベースとして、事前指導で「見通し」をもたせ、実践的な避難訓練で「行動」し、その後の話し合いや振り返りシートで自分自身の行動を「振り返る」という AAR サイクルで避難訓練プログラムを実践した。なお、実践を行うにあたり、教員勉強会を実施し、教員自身の防災意識や危機管理能力を高め合いながら、学校全体で一丸となって取り組んだ。

その結果、児童が自分や周りの子の行動のよかったところや改善点を振り返ることにつながり、災害に対して主体的に考え、自分の命を守るために進んで行動しようとする姿が見られた。

リスクコミュニケーションをベースとした AAR サイクルで行う避難訓練プログラムは、自分や周りの命を守るために適切に判断し、協力して避難しようとする意識を高めることに効果的であることが示唆された。